

## 私の言葉に、 私の魂が乗り移る瞬間を 見届けてほしい。

長い間私は、ひとの書いた「ことば」に、自分の魂が乗り移る瞬間に快感を感じていた。俳優という生業に。一方でずっと、『何か足りない』という欠落感が私に付きまどっていた。20世紀のおわりに、渋谷のジャンジャンで音楽劇を創った。その時、早川義夫の音楽に出会った。『埋葬』という曲を歌う。「足りない何か」の一つが、モゾモゾと動くのを感じた。それはメロディーだった。次に、私は小学校の頃の日記を引っ張り出してみた。マンガ付きの「詩」がたくさん書いてあって『詩人になりたい』とあった。「足りない何か」のもう一つは、「自分のことば」だと思われた。21世紀になると、俳優の仕事のお供にギターを抱えていった。『詩人になりたかった』私は「自分のことば」をギターのコードに乗せ始めていた。2003年、南青山マンダラで音楽劇を創った。その時も早川義夫の曲「父さんへの手紙」を歌った。マンダラの人に「一人で歌ってみませんか？」と誘われ、私は弾き語り歌手への第一歩を踏み出した。「ことば」を届ける仕事をしている私が、こんどは「自分のことば」をメロディーにのせて歌う・・・。

歌い始めた私に、耳を傾けるひが増えて、私を後押ししてくれる。「もっと、もっと、もっと、南谷朝子のことばを聴かせてくれ。」・・・と。

こうなったら、一人でも多くの人に「私のことばに私の魂が乗り移る瞬間」を見届けて欲しい。と今は思う。

**南谷朝子の美声と、言葉を伝える事の出来る  
稀有な歌唱力と共に、Live活動を通じて  
練り上げたメンバーによる楽曲は、  
あなたの記憶の中にルーツを求めていくでしょう。**

南谷朝子公式サイト	<a href="http://minamitani.deko8.jp/">http://minamitani.deko8.jp/</a>
株式会社キャピタルヴィレッジ	<a href="http://www.capital-village.co.jp">http://www.capital-village.co.jp</a>

## ～ロング&ワインディングロード～

## 私の音楽を 一緒に創ってくれた メンバーについて

3年前、突然コリングスのギター片手にとり憑かれたような熱意に溢れ歌い始めた私と出会ってくれた(しまった!?)メンバー。この3年の間に何回ものライブを重ねて南谷朝子の音楽と一緒に創り上げてくれたメンバーです。

Guitarの鈴木祐輔は私のギターの先生(面谷誠二)から派遣されてきて3年余のお付き合い。私の無理な注文をスマートにこなしてくれました。Keyboardの坂下秀実は日本のプログレバンドの草分け「四人囃子」のメンバー。黙々と仕事を進めるし、星空のようなピアノを(早川義夫談)弾くのです。録音すると、必ず曲ごとに中村敦の笑い声が入ってます、ストレートで喧嘩っ早いけど頼もしいDrums。切なくも優しいViolinの調べを奏するHONZI。いわずと知れたフィッシュマンズでもお馴染み。彼女とは音楽の話や殆どしたことないのに私の大好きなものをちゃんと判って大切にしてくれる音楽が人間になったヒト。Bassの浜崎賢太はコブラツイスターズの活動の合間を縫って、私の音楽に確かな爪あとを残してくれようとしています。音に対しては頑固だし、それが嬉しい。そして写真家の勝山さんは、リハにライブに飲み食い・・・と、私たちにいつも寄り添ってくれています。こうして、当初はライブ録音をしようかと思っただけのバンド感あふれるCDを創りました。エンジニアの宮本さん、竹中さん、関わってくれた全ての人々の音楽が詰め込まれています。レコーディングスタジオで口笛を披露してくれたのは宝塚トップスターの大浦みずきさん。そして「8・15NAGASAKI」では大浦さんに加えて、隣人でもあるバリトン歌手の河野克典さんを迎えることもできました。さあ、耳を澄まして聞いてみてください。あなたの記憶の中にルーツを求めていく道は、長くて曲がりくねった道・・・かもしれませんが・・・。



## 楽 曲 解 説

- [1] たそがれに...**  
作詞：清水邦夫・南谷朝子 作曲：南谷朝子  
清水邦夫の戯曲中の挿入歌です。楽曲の構成上、南谷が少し加えました。ミラーボールがきらめくダンスホールを想像しながら創りました。
- [2] 記憶のとびら**  
作詞・曲：南谷朝子  
東京は門前仲町を舞台にした楽曲です。滲み通る優しい音色や切ない響きを散り際の桜の花びらと重ねあわせて聴いてください。
- [3] サルビアの花**  
作詞：相沢靖子 作曲：早川義夫  
私が歌うきっかけを作ってくれた早川義夫さんの、あまりにも有名な楽曲。弦だけの編成でやりました。
- [4] セレーノに降る雪**  
作詞・曲：南谷朝子  
ジュニツラーの「盲目のジェロニモとその兄」を劇にした時の挿入歌。私が初めて創った思い出深い楽曲です。
- [5] ふ3892・マーチ**  
作詞・曲：南谷朝子  
赤い車マーチのうた、海に開かれた長崎をいっぱい走り廻った思い出の楽曲です。さよならを詠った中原中也からヒントを得ました。
- [6] W A L T S- instrumental**  
作曲：南谷朝子・HONZI  
HONZIと創ったインストの楽曲、長崎をイメージしました。
- [7] 8・15NAGASAKI**  
作詞・曲：南谷朝子  
長崎の“精霊流し”に遭遇した人は誰もが驚くと思います。死者を弔うエネルギーの強さに「よそもん」の私が出来るだけこの地を大切に思う。という決意の楽曲です。
- [8] 忘れない**  
作詞：南谷朝子 作曲：知久寿焼  
作曲の知久君とは不思議な縁で、...。これからもこんな風に一緒に創っていくでしょう。

清水 邦夫 作家・劇作家

余 貴美子 俳優

朝子さんとは舞台で御一緒させて頂きましたが、今まで感じた事のない、不思議な気配を醸し出す人で、技術で演じるというより、人間味のある芝居をする女優さんだと感じました。そんな彼女の歌は、最近のポップでダンサブルな楽曲が多い中、歌詞を、言葉を大事にしている。だから、心を掴むし泣かせる。実に演劇的でもある。自分に正直に生きている朝子さんの歌は、何も考えずに感じる歌なのかも知れない。演技をする以外に、これといって取り柄も表現手段を持たない私には、朝子さんが羨ましい。

早川 義夫 シンガーソングライター

歌を聴いて悲しくなったり、元気が出たり、感動する事はよくあるが、自分も歌いたくなるというのは、めったにあるものではない。南谷朝子さんが歌い始めたきっかけは僕の歌だったらしいが、もともと、彼女は歌うために生まれてきたのだ。アルバムの中で「記憶のとびら」が僕は好きだ。いい歌は自然と手が広がり空を見上げ何かをつかめそうな力を持っている。

山田まりや 俳優・タレント

舞台で共演した時の朝子さんは、楽屋の化粧前の鏡一杯に、ニャンコの写真を貼っていた。その鏡前で時折、子供みたいな事を云ってビー玉のように大きな目をキラキラ輝かしながらニッ、と笑ったりする。いつも唐突に予測不能な事を言って楽しませてくれる朝子さんのCDは、やっぱりおもしろかった。吸い込まれそうな大きな目がライブではゆらゆら燃える蠟燭のようだった。淡い光を放って小さな体に大きなギターを抱えて沢山の言葉を発する朝子さん、見ていると何か心の奥で記憶の断片がムズムズ動いているような、懐かしい気持ちになった。詞も曲も声も朝子さんの大きい目のように吸い込まれそうな世界が広がっていて、演劇のようでもあり、朝子さんの表現は果てしない。(順不同)